



「人と自然が共生する 活気あふれる
住みよいまち 南九州市」の
実現のために

令和5年度 施政方針と当初予算

感染拡大から3年となる新型コロナウイルス感染症について、国は「ウィズコロナで平時の日本を、日常を取り戻す」として感染症法上の位置付けを季節性インフルエンザと同等の5類に引き下げ、対策を緩和する方針を決定するなど大きな転換期を迎えています。

また、日本経済はコロナ禍からの社会経済活動が進み、緩やかな持ち直しが続いているものの、世界的なエネルギー・食料価格の高騰や景気後退懸念など、日本経済を取り巻く環境は厳しさを増しています。

このような予期しない事態が起こりうる昨今、私たちの日常生活や経済活動も物価高騰などさまざまな影響を受けておりますが、一日も早く日常を取り戻し、地域経済の発展・生活福祉の向上を図るための取り組みを強力に推し進めなければなりません。

市政運営にあたりましては、投資すべき分野・重点施策を明確にし、第2次総合計画後期基本計画のほか各種計画などに盛り込んであります施策を着実に実施しながら、全力で取り組んでまいりたいと考えております。

令和5年度 施政方針(抜粋)

令和5年3月議会定例会で市長が示した令和5年度施政方針を抜粋してお知らせします。

1 豊かな自然 活力ある農村 未来に向けて発展するまちづくり

近年は、担い手農家の減少などによる労働力不足、サツマイモ基腐病の発生・被害拡大、さらには化学肥料をはじめとした生産資材の高騰など農業を基幹産業とする本市にとっては厳しい状況が続いていますが、今後も関係機関との連携を強化し、農家が安定した農業経営に取り組めるよう、各種支援施策を積極的に導入・推進していきます。

令和5年度に公益社団法人南九州市農業公社頼娃出張所を開設し、農作業の受託事業強化を図り、小規模農家などの支援に努めます。

知覧茶ブランドの強化を図るため、国内外への情報発信や消費者ニーズに対応した、新たな販路開拓と効果的な販売戦略・PR活動に取り組むとともに、魅力あふれる「知覧茶」文化の継承などを総合的に推進していきます。



3月議会定例会で
施政方針を述べる市長

3 人と物が行き交い 快適で暮らしやすいまちづくり

市道については、市民の日常生活に最も身近な生活基盤であることから、道路交通の利便性、安全性を考慮しながら計画的な整備に努め、維持管理については地域住民との協働により進めていきます。

橋梁については、長寿命化修繕計画に基づいて、老朽化した橋梁の補修を計画的に実施し、長寿命化を図っていきます。

公園の整備については、各施設の長寿命化計画に基づく改築・更新を進め、安全・安心に利用できる市民の交流やふれあいの場として、公園の効率的な維持管理体制の構築に努めます。また、頼娃運動公園プール跡地の整備を進めていきます。

移住・定住については、住宅の取得、リフォームや家賃などに対する助成を拡充するとともに、住宅団地の分譲販売、空き家バンク制度やサテライトオフィス環境の推進などにより移住・定住促進対策の充実を図ります。

DX、デジタル・トランスフォーメーションの推進により、ICTやマイナンバーカードを活用したサービスを構築し、市民の利便性向上や行政業務の効率化を進め、「行かない・書かない・待たない」デジタル市役所に取り組みます。

2 魅力と活力にあふれ にぎわうまちづくり

商工業の振興については、商工会の経営改善普及事業、地域総合振興事業の2大事業を支援することにより、市内商工業者の経営安定化、イベント開催などによる地域社会の活性化事業を推進します。

ふるさと納税の推進については、市観光協会との連携を密にし、制度を活用した地域特産品のPRに努めるとともに、寄附者、返礼事業者との良好な関係性の構築に努めます。

企業立地の推進では、地域経済の発展につながる新たな雇用の場を確保するために、製造業やIT関連業などさまざまな業態の企業誘致を図ります。また、地元企業の認知度を高めるとともに適切なマッチングにより、若者が地元に残り働ける環境整備に努めます。

観光の振興については、新型コロナウイルス感染症の影響によるライフスタイルの変化やデジタル化の進展など、社会経済情勢や時代の潮流に対応するため、環境整備を充実させながら本市の新たな魅力を広く発信することで誘客の増加を図ります。また、「稼ぐ観光戦略」として、本市への滞在時間延長による観光消費の拡大に主眼をおき、食・お土産などの開発や体験の新設、磨き上げに取り組みます。

5 みんなで支え合い いきいきと 健やかに暮らせる まちづくり

子育て支援体制の強化については、安心して子どもを生み育てることができるまちの実現のため、出生祝い金を増額するとともに、親子が気軽に集える「地域子育て交流館」を開設します。

ひとり親等医療費助成制度の拡充や高校生までの子ども医療費の支給など子育て世帯に対する経済的な支援も行っていきます。

母子保健サービスの充実については、安心して生み、育てられる環境整備を目的とした、妊娠期から子育て期にわたるまで切れ目のない支援を提供するための「子育て世代包括支援センター」の活動と、新たに経済的支援として「出産・子育て応援給付金事業」を一体的に実施します。

保育サービスの充実については、希望者全員が保育サービスの提供を受けられるよう、受入れ体制の充実に向けた保育士確保への取り組みや保育所などの施設整備を推進していきます。

高齢者福祉については、給食サービスや生活支援サービスなどの在宅福祉サービスの充実を図るとともに、体力に応じた就労機会の確保に努め、ボランティア活動や互助活動などを通じて、高齢者の社会参加を支援していきます。

障害者福祉については、障害者の個々に応じた多様な働き方への支援や、障害の特性やライフステージの各段階に応じた保健・医療・福祉サービスの充実を推進して、地域で働きがいや生きがいのある生活を送れる地域共生社会の実現に努めます。

7 みんなで創る協働と自立の まちづくり

地域コミュニティの充実については、集落支援員を中心に地域コミュニティの更なる活性化を図り、共生・協働による住みよい地域づくりを目指します。

情報共有による住民参加体制の確立については、主体的な市民の行政参加を促すため、要望等に応じて適宜、懇談会を開催し、その中から市民の声を施策に反映させます。

新庁舎建設については、複合的な要因による物価高騰の影響により、建設コストの価格上昇も生じており、新庁舎建設計画においても影響は避けられない状況となっていることから、基本設計において庁舎規模の見直しを行い、延床面積を縮減いたしました。実施設計においては、新庁舎建設の基本方針を実現するために、必要な設備や機能を確保しつつ、さらに経費削減に努めていきます。

4 安全で安心して 住みやすい まちづくり

本市は、令和4年2月に「2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」へチャレンジすることを宣言しました。2030年二酸化炭素削減目標の2013年度比46%を達成するため、市民・事業者とともに地球温暖化対策や脱炭素社会実現に向けた取り組みを進めるとともに、ガイドラインに沿った再生可能エネルギー発電設備の適正な設置・管理の促進や省エネルギー対策の推進を図ります。

(仮称)南薩地区新クリーンセンターの施設整備については、構成市とも連携しながら計画的に取り組み、川辺最終処分場については閉鎖に向けて、川辺清掃センターについては「ごみ中継施設」の建設に向けて取り組みを進めていきます。

国土強靱化地域計画に基づき、いかなる自然災害にも対応できる地域づくりを進めるとともに、災害などから地域の安全・安心を確保する防災対策事業の推進や、防災行政無線、インターネット上で避難所の状況を市民に周知する「災害救援マップ」などにより、迅速な緊急情報や避難所情報の伝達に努めます。

老朽化した危険な空き家については、空家等適正管理支援事業により除却推進を図り、生活環境を守ります。

6 心の豊かさと創造力を育む 教育・文化の まちづくり

学校教育については、個に応じたきめ細かな教育の充実、心の教育の推進、ICTを活用した教育の情報化の推進、小中連携教育の充実などを通して学力の向上を図るとともに、郷土のよさを生かした学習活動を重視し、地域に開かれた特色ある学校づくりを進めます。また、積極的な生徒指導を推進し、道徳教育の充実を図りながら、不登校・いじめ問題の解消に取り組むとともに、豊かな感性や情緒を育む読書活動や各学校が主体的に取り組む「学びのグレードアップ3か年プロジェクト事業」の2年目を推進していきます。

小・中学生の学校給食費を無償とし、子育てしやすいまちづくりを推進するとともに、遠距離通学の小学生のため保護者の負担軽減を図ります。

10月に開催される「燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会」のソフトボール競技などの開催地として、市民総参加のもと、大会の成功と感動を与える大会になるよう準備を進めていきます。

令和5年度 南九州市当初予算

一般会計 270億2,600万円 (対前年度比 +11.1%)
特別・企業会計 132億4,960万円 (対前年度比△ 0.8%)

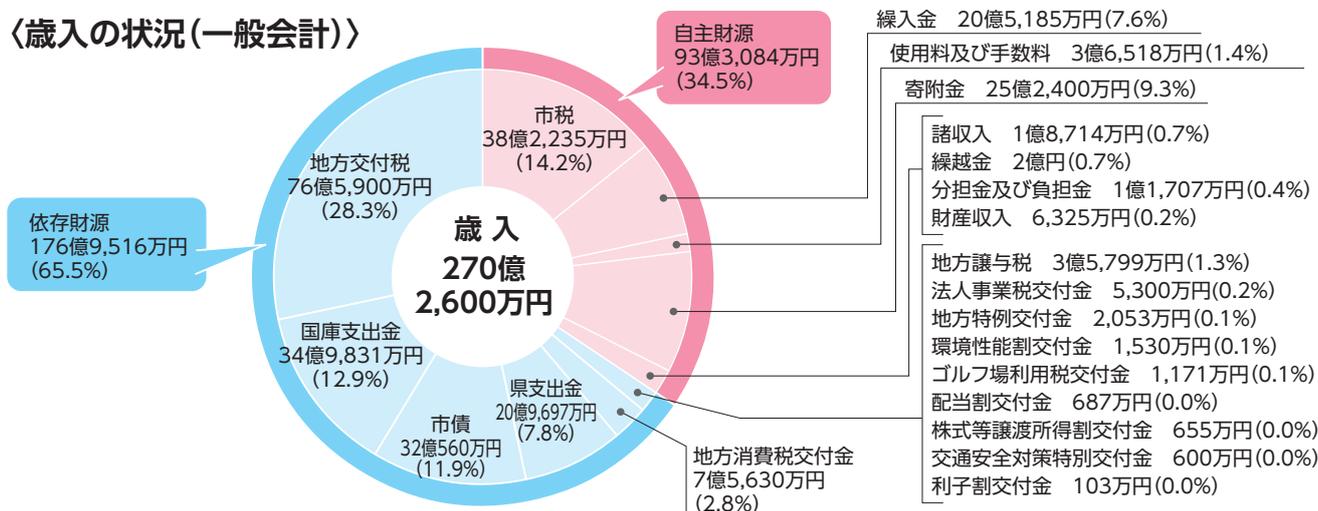
南九州市の令和5年度当初予算は、行政改革大綱、集中改革プランおよび中期財政計画に基づき、長期的視点に立った持続可能で健全な財政運営に努めるとともに、第二次総合計画において掲げた都市将来像の実現に向けた諸施策を確実に推進するため、選択と集中を徹底したメリハリのある予算編成としました。

特に、地域の発展と住民福祉の向上を図るため、「子育て支援の充実」、「産業・観光の振興」、「効率的な行政運営の推進」などに重点的に予算配分を行い、ウィズコロナの下、激変する社会経済情勢や高度化・多様化・複雑化する行政需要に創意工夫を持って的確に対応していきます。

このようなことを踏まえた一般会計の総額は270億2,600万円で、前年度比11.1%、27億349万1千円の増と積極的な予算編成となりました。また、一般会計と特別会計および企業会計を合わせた予算総額は、402億7,559万9千円、前年度比6.9%、26億250万6千円の増となりました。

令和5年度当初予算の歳入歳出状況

〈歳入の状況(一般会計)〉



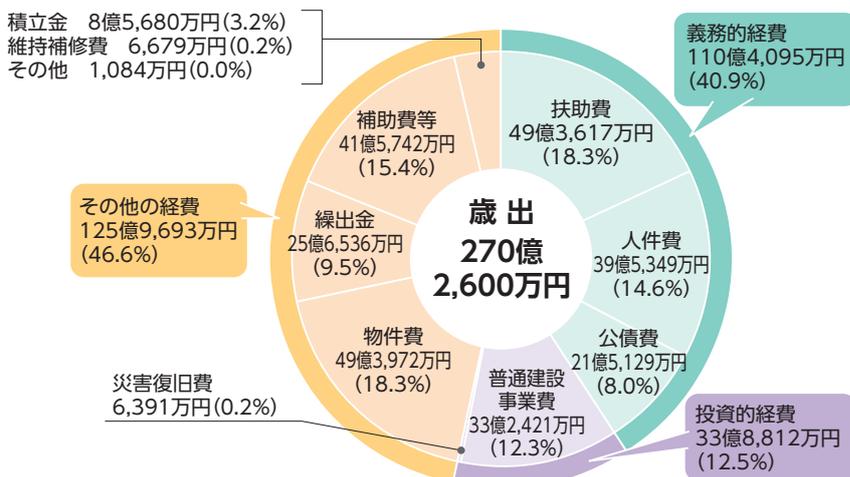
歳入は、国や県から交付されるお金である「依存財源」と呼ばれるものが総額の65.5%を占めています。依存財源のうち、最も多いものは、地方自治体が一定水準の行政サービスを保つために国から交付される地方交付税で、全体の28.3%を占めており、以下、国庫支出金、市債(借金)、県支出金の順となっています。

一方、市が自ら賄えるお金である「自主財源」のうち、最も多いものは、市民の皆さんに納めていただく市税で、全体の14.2%を占めています。寄附金の主なものはふるさと寄附金によるもので、前年度に対して1.1ポイントの増となっています。

歳出を性質別に見ると、扶助費、人件費および市債(借金)の償還を行う公債費で構成される「義務的経費」と呼ばれるものは、全体の40.9%を占めており、いずれも減となったことで、前年度に対して5.5ポイントの減となりました。

道路整備や基盤整備など「投資的経費」と呼ばれるものは、全体の12.5%で、前年度に対して0.8ポイントの増となりました。これは、新庁舎建設および顕娃運動公園多目的広場整備などが増となったことによるものです。また、委託料や備品購入費などの物件費については、前年度に対して1.0ポイントの増で、全体の18.3%を占めています。

〈性質別歳出の状況(一般会計)〉



〈目的別歳出の状況（一般会計）〉

区分	令和5年度	令和4年度
民生費	76億9,109万円 (28.5%)	77億5,279万円 (31.9%)
衛生費	36億499万円 (13.3%)	22億4,815万円 (9.2%)
総務費	32億307万円 (11.9%)	43億9,668万円 (18.1%)
教育費	25億6,412万円 (9.5%)	21億630万円 (8.6%)
公債費	21億5,129万円 (8.0%)	22億3,416万円 (9.2%)
商工費	20億9,042万円 (7.7%)	3億1,182万円 (1.3%)
土木費	19億4,056万円 (7.2%)	16億819万円 (6.6%)
農林水産業費	16億4,994万円 (6.1%)	15億5,727万円 (6.4%)
消防費	10億3,583万円 (3.8%)	11億4,116万円 (4.7%)
議会費	1億6,110万円 (0.6%)	1億6,316万円 (0.7%)
諸支出金	8億5,693万円 (3.2%)	7億7,788万円 (3.2%)
予備費	1,000万円 (0.0%)	1,000万円 (0.0%)
災害復旧費	6,666万円 (0.2%)	1,495万円 (0.1%)

歳出を目的別に見ると、最も大きな割合を占めるのが、市民の皆さんが安心して暮らすための福祉の充実などに使われる民生費です。前年度に対して**3.4ポイントの減**で、全体の**28.5%**を占めています。

次に多いのは衛生費で全体の13.3%を占め、**南薩地区新クリーンセンター建設に伴う一部事務組合負担金の増**により、前年度に対して**4.1ポイントの増**となりました。

以下は総務費、教育費、公債費、商工費、土木費、農林水産業費、消防費の順となっています。

なお、商工費と総務費の増減は、主にふるさと寄附金事業費の計上費目の移し替えによるものです。

会計別の当初予算額

区分	令和5年度	令和4年度	比較	
			増減額	増減率
一般会計	270億2,600万円	243億2,250万9千円	27億349万1千円	11.1%
特別会計	117億2,440万円	118億7,210万円	△1億4,770万円	△1.2%
国民健康保険事業特別会計	55億8,500万円	56億9,700万円	△1億1,200万円	△2.0%
後期高齢者医療特別会計	6億3,940万円	6億4,670万円	△730万円	△1.1%
介護保険事業特別会計	55億円	55億2,840万円	△2,840万円	△0.5%
企業会計	15億2,519万9千円	14億7,848万4千円	4,671万5千円	3.2%
水道事業会計	11億5,156万円	11億3,786万4千円	1,369万6千円	1.2%
公共下水道事業会計	2億2,611万3千円	2億2,887万4千円	△276万1千円	△1.2%
農業集落排水事業会計	1億4,752万6千円	1億1,174万6千円	3,578万円	32.0%
合計	402億7,559万9千円	376億7,309万3千円	26億250万6千円	6.9%

令和5年度当初予算を市民1人当たりに換算すると・・・

市民1人当たりが負担する市税

総額 **115,730円**

※金額は、令和5年2月28日現在の住基人口(32,597人)で計算しています。(鈷産税、国有資産等所在市町村交付金は除く)

市民1人当たりに使われるお金

総額 **829,095円**

※金額は、令和5年2月28日現在の住基人口(32,597人)で計算しています。



固定資産税
68,841円



市民税
35,615円



民生費
235,945円



衛生費
110,593円



総務費
98,263円



教育費
78,661円



市たばこ税
6,234円



軽自動車税
5,040円



公債費
65,997円



土木費
59,532円



農林水産業費
50,616円



消防費
31,777円



その他
97,711円

令和5年度

当初予算の特徴

南九州市では、将来都市像である「人と自然が共生する 活気あふれる 住みよいまち 南九州市」を目標として掲げ、南九州市総合計画に基づき、まちづくりを進めています。ここでは、令和5年度の当初予算の特徴について紹介します。

子育て支援の充実

1 地域子育て交流館事業

新規

【2889万円】

新しく整備された地域子育て交流館において、放課後児童健全育成事業、地域子育て支援拠点事業、一時預かり事業等を実施し、児童の健全育成を図ります。



2 学校給食費補助事業【1億1448万円】

小・中学校および特別支援学校に在籍する児童生徒の学校給食費を補助することで、保護者の経済的負担を軽減し、子育て支援を図ります。

3 颯娃運動公園多目的広場整備事業

一部新規

【1億5497万円】

颯娃運動公園プール跡地を活用して多目的広場を整備し、遊具や休憩所の建設により、子どもから高齢者まで幅広い年代がくつろげる空間を創出します。

教育環境の充実

1 小・中学校ICT推進事業

【5947万円】

プログラミング教材やオンライン教材、授業支援クラウドなどICT関連の機器を最大限に生かし、学力の向上とともに児童生徒の情報活用能力の向上を図ります。



2 市内高等学校活性化事業

【503万円】

市内3つの高等学校の活性化を図るため、各校活性化協議会の活動費を補助するとともに、在校生が受検する各種検定の受検料の一部を助成することで、地域の活性化と人材育成を目指します。

住みやすいまちづくりと移住・定住対策の充実

1 まちづくり事業

【1102万円】

自治会等の地域コミュニティ組織や住民のコミュニティ団体が実践するまちづくり事業や地域課題解決事業、魅力づくり事業に対する支援を行い、活気あふれるまちづくりを目指します。

2 移住定住促進対策事業

一部新規

【5926万円】

市内におけるマイホームの取得費用や、住み替え住宅のリフォーム費用、子育て転入世帯の家賃のほか、市内に居住する新婚世帯の家賃や引っ越し費用等に対し補助金を支給することで、若年層の移住定住を促し、地域の活性化を図ります。

産業の振興

1 新規就農者確保対策事業

新規

【1629万円】

本市の農業の魅力を発信し、就農希望者を呼び込むことにより地域活性化を図ります。

2 サツマイモ基腐病対策支援事業

新規

【355万円】

サツマイモ基腐病発生抑制効果のある種イモの蒸熱処理費用の一部助成や残渣処理場を設置しサツマイモ残渣を適正に処分することで、サツマイモ基腐病被害の抑制を図ります。

観光の振興

1 アウトドア事業

一部新規

【9276万円】

アドベンチャーパーク森のかわなべの開園と岩屋公園内バーベキュー棟の建設により、滞在時間と観光消費額の拡大を図ります。

2 サイクルツーリズム推進事業

【572万円】

安全で快適な新しい旅行スタイルを実現するため、自転車利用の促進、サイクルツーリズムの環境整備を行い、広域周遊による滞在時間と観光消費額の拡大を図ります。

効率的な行政運営の推進

1 新庁舎建設事業

一部新規

【4億5914万円】

新庁舎建設に向け、新庁舎の実施設計業務委託のほか、敷地造成工事などの取りまとめや管理を行います。